

学 科	作業療法士学科		科目区分	専門分野	授業の方法	演習
科目名	作業科学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) <small>時間(単位)</small>
対象学年	昼間部3年		学期	前期	教室名	801
担当教員	林 辰博					
実務経験と その関連資格	<p>作業療法士として総合病院に勤務し身体障害領域に従事。各種心身機能・活動・参加・環境に対する各種評価・作業療法を実施。</p> <p>大阪府作業療法士会理事(災害支援・福祉用具)、日本作業療法士協会部員(教育部・地域社会復興部) 大阪市障がい支援区分審査員、東大阪介護保険福祉用具貸与・住宅改修調査員、JRATなどでも活動 生活行為向上マネジメント(MTDLP)基礎研修講師(MTDLP実践者) 臨床実習指導者講習会終了、臨床実習者指導者講習会講師</p> <p>作業療法士、公認心理士 防災士、防災介助士、サービス介助士、応急手当普及員 Arnadottir OT- ADL 神経行動学的評価法(A-ONE)認定評価者・講師 教育学修士(専門職)</p>					
《授業科目における学習内容》						
作業療法理解の基礎となる、人と作業と環境の関係を科学する作業科学を学びます。『作業』が持つ健康への効果・重要性・必要性の理解を深めます。そのために個々の作業に要点を当て事例演習を通じ、作業療法士としての作業を中心とした臨床思考を深めます。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験 :30% 小テスト :10% レポート :60%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 作業療法実践の理論 原著第4版 (参考) ・ 作業療法が分かる COPM・AMPS実践ガイド ・ 第2版 作業療法を始めよう COPM・AMPS・ESISターティングガイド ・ 標準作業療法学 作業療法概論 第4版 ・ 作業療法マニュアル77 生活行為向上マネジメント 改訂第4版 						
《授業外における学習方法》						
自分の重要な作業をみつけ、その意味・効果・重要性・必要性について考えてみてください。また、友人・家族の重要な作業の意味・効果・重要性・必要性へも触れてください。 配布資料の読み込みによる作業療法士の視点、臨床過程のイメージを作ってください						
《履修に当たっての留意点》						
作業療法の理解を作業科学・理論を基に深めてもらいます。学生・教員のそれぞれの相互交流を基に各々の作業療法士として必要な視点を付けてください。授業の中で生まれた疑問はそのつど解決してください。事例が思考を深めます。多くの事例に自主的に触れて欲しいです。						
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外の準備学習の具体的な内容		
第1回	授業を通じての到達目標	作業療法士における、『作業科学とは(作業の意味・効果・重要性・必要性)』を知る。	作業療法実践の理論 原著第4版	・COPMの実践例をまとめる		
	各コマにおける授業予定	作業科学の概要、個々の作業の意味・効果・重要性・必要性を考え、他者の作業の意味・効果・重要性・必要性を知る。				
第2回	授業を通じての到達目標	COPMを使うことができる 他者・自己の重要な作業を知ることができる	作業療法実践の理論 原著第4版	・COPMの実践例をまとめる ・作業療法パラダイムをまとめる		
	各コマにおける授業予定	COPM				
第3回	授業を通じての到達目標	COPMを使うことができる 他者・自己の重要な作業を知ることができる	作業療法実践の理論 原著第4版	・COPMの実践例をまとめる ・作業療法パラダイムをまとめる		
	各コマにおける授業予定	COPM				
第4回	授業を通じての到達目標	作業療法のパラダイムの流れを知る	作業療法実践の理論 原著第4版 第3章	・作業療法パラダイムをまとめる		
	各コマにおける授業予定	作業療法パラダイム				
第5回	授業を通じての到達目標	作業療法のモデルの特性と役割を知る	作業療法実践の理論 原著第4版 第6章	・概念的実践モデルをまとめる		
	各コマにおける授業予定	概念的実践モデル				

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第 6 回	授業を通じての到達目標	意図的關係モデル、運動コントロールモデル、生体力学的モデルの特性・役割・実践を知る、まとめることができる	作業療法実践の理論 原著第4版 第6～13章	・第6～13章の各モデルをまとめる、発表準備
	各コマにおける授業予定	第6章 意図的關係モデル、第7章 運動コントロールモデル、第8章 感覚統合モデル、第9章 機能的グループモデル、第10章 生体力学的モデル、第11章 人間作業モデル、第12章 認知モデル		
第 7 回	授業を通じての到達目標	意図的關係モデル、運動コントロールモデル、生体力学的モデルの特性・役割・実践を知る、まとめることができる。発表準備ができる。	作業療法実践の理論 原著第4版 第6～13章	・第6～13章の各モデルをまとめる、発表準備
	各コマにおける授業予定	第6章 意図的關係モデル、第7章 運動コントロールモデル、第8章 感覚統合モデル、第9章 機能的グループモデル、第10章 生体力学的モデル、第11章 人間作業モデル、第12章 認知モデル		
第 8 回	授業を通じての到達目標	意図的關係モデル、運動コントロールモデル、生体力学的モデルの特性・役割・実践を伝えることができる。	作業療法実践の理論 原著第4版 第6～13章	・第6～13章の各モデルについて発表
	各コマにおける授業予定	第6章 意図的關係モデル、第7章 運動コントロールモデル、第8章 感覚統合モデル、第9章 機能的グループモデル、第10章 生体力学的モデル、第11章 人間作業モデル、第12章 認知モデル		
第 9 回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第 1 0 回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第 1 1 回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第 1 2 回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第 1 3 回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第 1 4 回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第 1 5 回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			